行 事 報 告 書(研修)

報告者:森本　和子

行 事 名	2024年2月度　自然観察会
実施日時	2024　年 2　月 8　日(木 曜日) 10　時～ 14　時　天候:曇り
場 所	武田尾
テーマ	“冬芽は嘘をつかない”
講師	児玉さん、藤原さん(サブリーダー)
参加者数	23名(講座生1名含む)

◆観察コース

武田尾駅～武庫川左岸～武田尾橋～武庫川右岸～温泉橋～温泉橋周辺で昼食～温泉橋～武庫川右岸～コクサギ生育場所～温泉橋(解散)

◆観察概要

(武田尾駅～温泉橋)

・今年も武田尾は寒い。ジャケツイバラのとげの鋭さに圧倒される。ジャケツイバラの冬芽は葉痕の上部から出ていて上の冬芽ほど大きい。上方の大きな芽が主芽、下方の芽は副芽(予備芽)

・ヌルデの果実をなめてみる。リンゴ酸カルシウムの味がしょっぱい。別名シオノキ。

・アラカシのようなブナ科のカシの仲間は冬芽が多い。枝先に頂芽と頂生側芽がほぼ五角形に並ぶ。その下の葉の側芽は大部分花芽。

・ヒメコウゾの葉痕は飛び出ている。その上におにぎりの様な冬芽がかわいい。

・太いヤマブキの茎の中に棒を突っ込んで押し出すと髄をポンと出た。それはまさに白い発泡スチロールでできた細長い棒のようなものだ。触り心地も軽さも断面も発泡スチロールそのものだった。

・イタヤカエデやエンコウカエデの冬芽は他のカエデの仲間のような仮頂芽ではなく頂芽がある。

・ヨコグラノキはコクサギ型葉序。ナガバモミジイチゴの冬芽は赤く尖っていて美しい。

・冬のケヤキの見分け方。若木は樹皮での判別は？　枝先がジグザグで平面に広がり互生(二列互生:ニレ・アサ科の特徴)で冬芽が枝から開出しているところがポイントだ。

・オレンジ色の物がコンクリ製の電柱、壁にべったりとくっついている。これはスミレモで藻類の仲間である。藻類は一般的に水中で育つがスミレモは例外的に陸上で生活をする。スミレの匂いがする(？)らしい。

・アブラチャンの冬芽は二つの花芽が丸く葉芽の先は尖っていて形が面白い。

(温泉橋～武庫川右岸～温泉橋)

・タラノキ:下方はとげが鋭く多数付いているが上の方の枝先のとげは少ない。上の方は鹿などに食べられる恐れが少ないのでとげが少ないという事だ。葉痕は真珠の首飾り状で美しい。

・クズの茎を切ると中に放射状の太い導管が多数見える。ツルが長いので水を吸い上げなければならないためこのようになっている。袋に水を入れてクズの枝をさして息を吹き込むと勢いよくブクブクと泡がたくさん出た。導管が太い。

・キササゲの冬芽はバラの花の様。まっすぐ生えているので矢に使ったヤダケも川沿いに多く見られた。

・アオキの冬芽は一つの芽から枝・葉 2, 3 本と花が同時に出てくるので大きい。

オニグルミの冬芽

◆感想

例年よりはまだ暖かい武田尾だが後半は風も出てきて寒さが厳しくなってきた。そのような中でも多数の冬芽を観察することができた。冬芽は地味でなかなか覚えられないが回数を重ねれば覚えられるかと期待を持ちたい。

写真）　大原さん、樋口さん、児玉さん、森本

全　　体　　写　　真

クマノミズキの冬芽

観　察　風　景

発泡スチロールの様な
ヤマブキの髄

コクサギの冬芽

イタヤカエデの冬芽

イロハモミジの冬芽